

【七尾市】
校務DX計画

令和7年2月14日

1. 校務DXを推進する上での現状と課題

令和3年度より統合型校務支援システムを導入し、校務管理・学籍管理等の業務のデジタル化を推進している。

また、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、授業研究会や校内研修などは、コロナ禍における取組みとしてオンライン化が積極的に行われたこともあり、クラウドツールの活用が浸透しつつある。

その一方で、職員会議や教職員への周知、教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化は進んでおらず、クラウドツールの積極的な活用による負担軽減とコミュニケーションの活性化が課題である。

2. 校務DXを推進するための課題解決策

校務の効率化・ペーパーレス化の大きな阻害要因となっている、FAXでのやり取り・押印の見直しを進める。その上で、クラウドツールの積極的な活用を図るため、各市立小中学校のICT担当者で構成する会議等における情報共有や事例紹介等を行う。

3. 次世代校務DX環境の整備について

令和5年3月に文部科学省が取りまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において方向性が示された「次世代校務DX」環境（ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方）を目指し、必要な環境整備について今後、各市立小中学校情報担当者とも連携しながら、検討を深める。